

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

| | |
|--|--|
| 産業廃棄物処理計画書 | |
| 令和5年 6月 12日 | |
| 埼玉県知事 殿 | |
| 提出者 住 所 埼玉県八潮市大字南後谷159番地1 氏 名 株式会社内山アドバンス 草加工場 代表取締役社長 柳内 光子 電話番号 048-936-4107 | |
| 廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。 | |
| 事業場の名称 | 株式会社内山アドバンス 草加工場 |
| 事業場の所在地 | 埼玉県八潮市大字南後谷159番地1 |
| 計画期間 | 令和5年4月1日 から 令和6年3月31日まで |
| 当該事業場において現に行っている事業に関する事項 | |
| ①事業の種類 | 生コンクリート製造業 |
| ②事業の規模 | 製造品出荷額(令和4年度実績) 1,200,477千円 |
| ③従業員数 | 11名 |
| ④産業廃棄物の一連の処理の工程 | ■ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず 汚泥→脱水→ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず →産業廃棄物処理業者で破碎→RC骨材として再生利用 ■廃プラスチック類 廃プラスチック→産業廃棄物処理業者で破碎→再生利用 |

(日本工業規格 A列4番)

| 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項 | | | |
|-----------------------|--|---------------------|-----------------|
| (管理体制図) | | | |
| | | | |
| 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項 | | | |
| ①現状 | 【前年度（令和4年度）実績】 | | |
| | 産業廃棄物の種類 | ガラス・コンクリート 陶磁器くず | 廃プラスチック類 木くず |
| | 排出量 | 13,832.00 t | 2.73 t |
| | (これまでに実施した取組) ・出荷製品の納入先である建設現場（ゼネコン）に対して、残・戻りコンクリートが極力少なくなるようお願いした。 ・建設現場に対し全く荷卸しされずに戻ってくる戻りコンクリートについては有償化とした。 | | |
| ②計画 | 【目標】 | | |
| | 産業廃棄物の種類 | ガラス・コンクリート 陶磁器くず | 廃プラスチック類 木くず |
| | 排出量 | 13,832.00 t | 2.73 t |
| | (今後実施する予定の取組) ・建設現場に対しトラックアジテータから全く荷卸しされずに戻ってくる戻りコンクリートの他に、トラックアジテータから一部荷卸しされずに戻ってくる残コンクリートも6月より有償化とする。 | | |
| 産業廃棄物の分別に関する事項 | | | |
| ①現状 | (分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ガラス、コンクリート及び陶磁器くず 適正な場所に保管している。産業廃棄物処理業者での再生を可能とするため、異物の混入がないようにしている。 | | |
| ②計画 | (今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ガラス、コンクリート及び陶磁器くず 適正な場所に保管する。産業廃棄物処理業者での再生を可能とするため、異物の混入がないようにする。 | | |

(第3面)

| 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項 | | | |
|----------------------|--|---------------------|-----------------|
| ①現状 | 【前年度（令和4年度）実績】 | | |
| | 産業廃棄物の種類 | ガラス・コンクリート 陶磁器くず | 廃プラスチック類 木くず |
| | 自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量 | 0 t | 0 t |
| | (これまでに実施した取組) なし。 | | |
| ②計画 | 【目標】 | | |
| | 産業廃棄物の種類 | ガラス・コンクリート 陶磁器くず | 廃プラスチック類 木くず |
| | 自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量 | 0 t | 0 t |
| | (今後実施する予定の取組) なし。 | | |
| 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項 | | | |
| ①現状 | 【前年度（令和4年度）実績】 | | |
| | 産業廃棄物の種類 | ガラス・コンクリート 陶磁器くず | 廃プラスチック類 木くず |
| | 自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量 | 0 t | 0 t |
| | 自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量 | 7,228.30 t | 0 t |
| | (これまでに実施した取組) ・洗浄により発生した汚泥から中間処理（脱水処理・分級処理）にて 上澄水および回収骨材を抽出する。上澄水については生コンクリート の練混ぜ水、回収骨材については路盤材として再利用する。 | | |
| ②計画 | 【目標】 | | |
| | 産業廃棄物の種類 | ガラス・コンクリート 陶磁器くず | 廃プラスチック類 木くず |
| | 自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量 | 0 t | 0 t |
| | 自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量 | 7,228.30 t | 0 t |
| | (今後実施する予定の取組) ・引き続き同様の処理を行う。 | | |

(第4面)

| 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項 | | | |
|---|-----------------------------------|---------------------|-----------------|
| ①現状 | 【前年度（令和4年度）実績】 | | |
| | 産業廃棄物の種類 | ガラス・コンクリート 陶磁器くず | 廃プラスチック類 木くず |
| | 自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量 | 0 t | 0 t |
| | (これまでに実施した取組) | | |
| ②計画 | 【目標】 | | |
| | 産業廃棄物の種類 | ガラス・コンクリート 陶磁器くず | 廃プラスチック類 木くず |
| | 自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量 | 0 t | 0 t |
| | (今後実施する予定の取組) | | |
| 産業廃棄物の処理の委託に関する事項 | | | |
| ①現状 | 【前年度（令和4年度）実績】 | | |
| | 産業廃棄物の種類 | ガラス・コンクリート 陶磁器くず | 廃プラスチック類 木くず |
| | 全処理委託量 | 6,603.70 t | 2.73 t |
| | 優良認定処理業者への 処理委託量 | 0 t | 0 t |
| | 再生利用業者への 処理委託量 | 6,603.70 t | 2.73 t |
| | 認定熱回収業者への 処理委託量 | 0 t | 0 t |
| | 認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量 | 0 t | 0 t |
| (これまでに実施した取組) ・収集運搬から処分場までマニフェストにより確認した。処分場については現地に赴き現認した。 | | | |

| | | | |
|--------|-----------------------------------|---------------------|-----------------|
| ②計画 | 【目標】 | | |
| | 産業廃棄物の種類 | ガラス・コンクリート 陶磁器くず | 廃プラスチック類 木くず |
| | 全処理委託量 | 6,603.70 t | 2.73 t |
| | 優良認定処理業者への 処理委託量 | 0 t | 0 t |
| | 再生利用業者への 処理委託量 | 6,603.70 t | 2.73 t |
| | 認定熱回収業者への 処理委託量 | 0 t | 0 t |
| | 認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量 | 0 t | 0 t |
| | (今後実施する予定の取組) ・引き続き同様の取り組みを行う。 | | |
| ※事務処理欄 | | | |

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。